



北っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ
家庭・地域に帰します！

◇教育目標：人・社会・未来へつなぐ Well-being

◇重点目標：学ぶ楽しさを見つけ、よりよい考えを表現できる子の育成

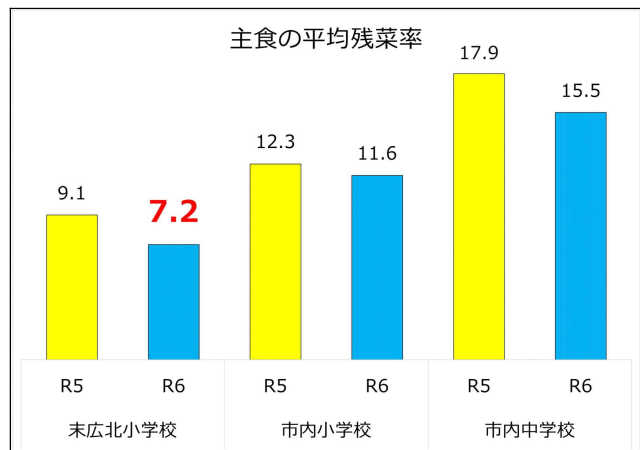
末広北小学校のおいしい給食「いただきます」「ごちそうさまでした」

校長 大野 昌 広

11月21日（金）に給食試食会を実施しました。17名の保護者の皆さんがご参加くださり、給食の概要や栄養等について学んでいただきました。その後、実際に試食を行い、さらに子どもたちの給食の様子を参観していただきました。ありがとうございました。

さて、今号は私の教員生活の思い出を交えながら、学校給食が持つ意義についてお話ししたいと思います。私の教員としての出発地は、日高管内えりも町立えりも中学校でした。えりも町は昆布や秋鮭などの豊かな水産資源と襟裳岬を代表とする雄大な自然景観に恵まれた町です。今から約37年前、当時約300人の生徒が在籍していたえりも中学校をはじめ、町内の小中学校には学校給食がありませんでした。児童生徒も先生方も、毎日弁当を持参する生活でした。しかし、夏の昆布漁（午前2時頃から始まる）の時期になると、一部の家庭では早朝の弁当作りが難しくなり、子どもにお金を持たせるという状況が生まれていました。その結果、学級担任が子どもたちの昼食（多くは菓子パン）を町内唯一のスーパーまで買いに行くという対応が日常化していました。多い日には1クラスで4～5人分にもなり、午前11時頃のスーパーは先生方で混み合っていたことをよく覚えています。私自身も早朝からの弁当作りが負担に感じることもあり、おかずの材料が尽きた日には、苦肉の策でウインナーだけを7本ほど詰めて乗り切った苦い経験があります。このような生活が8年間続きました。2校目の勤務地は、学校給食のある浦河町でした。浦河町の学校給食の特徴は、当時「地産地消」という言葉が広がる前から、地元の昆布関連食材を積極的に活用していたことです。例えば、細切り昆布とマヨネーズを和えたサラダなどが頻繁に出されていました。中でも特に印象に残っているのが「昆布パン」です。パン生地に昆布の粉末を練り込んだ深緑色のコッペパンは磯風味。ただ、舌触りが粗く、率直に言って「美味しい」とは言い難い出来でした。私が当時担当していた25人の学級でも、パンがほとんど残ってしまったことがありました。しかし、浦河町学校給食センターは子どもたちに地元の味を知ってほしいという強い思いから、諦めることなく改善を続けました。私が浦河町に勤務していた4年間で、味や食感を計4回も改良し、「昆布パン4号」として提供が続けられていました。

日本の学校給食は、1889年（明治22年）、山形県鶴岡町（現・鶴岡市）の大督寺（だいとくじ）境内にあった私立忠愛（ちゅうあい）小学校で始まったのが起源とされています。生活に困窮している家庭の児童を対象に、無料で昼食を提供したのが始まりです。給食初となる献立は、おにぎり、焼き魚（塩サケ）、菜の漬物でした。私立忠愛小学校は、鶴岡町の寺院の各住職が宗派を超えて行なった寄付によって設立されました。その後、学校は火事で焼失しましたが、設立時の志を引き継ぎ、「忠愛協会」を設立。寄付金や浄財をもとに昭和20年まで弁当や給食費の支給が継続され、学校給食の礎となりました。1959年（昭和34年）には学校給食70周年記念式典が開催され、現在、大督寺境内には「学校給食発祥の地」の記念碑が建てられています。



本校の給食は、学校内で調理する自校給食です。谷栄養教諭の指導のもと、8名の給食調理員さんが、本校（311食）に加えて広陵中学校（451食）、合計762人分の給食を毎日調理し、提供してくれています。過日、旭川市教育委員会学校保健課から令和6年度学校給食残菜率調査の結果が通知されました。それによると、令和6年度の給食全体の残菜率（食べ残し）は、小学校が11.6%（R5年度12.3%）、中学校が15.5%（R5年度17.9%）。本校は7.2%。とてもよく給食を食べています。本校は、市内全小学校の平均と比べると、副食なども含め、残菜率が低い傾向がみられます。パン給食のときの副食の中で一番残菜率の低いのが（人気メニュー）、小学校、中学校とも《チキンナゲット》（小：2.5%、中：1.3%）、高いのは、小学校《ベジタブルソテー》（23.4%）、中学校《キャベツソテー》（33.1%）でした。米飯給食のときの副食の中で一番残菜率の低いのが（人気メニュー）、小学校《オレンジ》（1.8%）、中学校《とり天》（1.9%）。高いのは、小学校《キャベツの炒め物》（28.1%）、中学校《さつま揚げの煮物》（33.1%）でした。

「おいしいものを おいしく食べよう」は、第4次旭川市食育推進計画のスローガンです。そもそも、食育を包括的・計画的に推進するための「食育基本法」は、平成17年6月に公布され、同年7月15日に施行されました。これを受けて旭川市は食育推進計画を策定し、令和5年3月には4回目となる第4次旭川市食育推進計画を策定しました。本校は、この旭川市食育推進計画に基づき、食に関する指導の全体計画を作成し、計画的に食育指導を推進しています。

「いただきます」は、「いただく」という謙譲語（もらう・食べる・飲むの謙譲語）から派生した言葉です。この言葉には、単に食べ物を口にするという意味だけでなく、食事に携わってくれたすべての方々への感謝の気持ち、そして食材そのものへの感謝が込められています。一方、「ごちそうさま」は、漢字で書くと「御馳走様」となります。昔は冷蔵庫やスーパーがない時代ですから、食事のために食材を揃えるのは大変な労力を要することでした。「馳走（ちそう）」とは走り回るという意味で、遠くまで食材を求めて奔走したり、食事を出してまでもなすために懸命に準備したりする様子を表しています。やがて、丁寧語の「御」をつけた「御馳走」という言葉に「もてなしの食事」という意味が含まれるようになり、贅沢な料理を指すようにもなりました。そして、そのように大変な労力を費やして食事を準備してくれた方々への感謝の念を込めて「様」が付き、食事のあとに「ごちそうさま」「ごちそうさまでした」と挨拶するようになったと伝えられています。

季節は猛暑の夏から爽やかな秋へと移り、やがて冬を迎えました。北っ子は今日も、給食に携わってくださるすべての方々と、豊かな食材への感謝の気持ちを込めて、手を合わせます。「いただきます」「ごちそうさまでした」。

《今号は第14号に加筆・修正を加えました》

ユニバーサル公演（パントマイムショー）開催

文化庁「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業」の一環として、東京から「スーパーパントマイムシアター SOUKI」の皆さんをお迎えして、11月11日（火）～12日（水）の間で、6年生対象のパントマイムワークショップと全校児童に向けてのユニバーサル公演（パントマイムショー）を行いました。この2日間は、プロのパントマイムを鑑賞したり、パントマイムの実技指導を受けたりと有意義な時間となりました。また、役者の方の中には全盲の方もおりましたが、本人の努力と周囲の協力と工夫により、舞台では不自由さを感じさせない演技を見せてくれました。児童達にも、努力と周囲の協力で、障がいがあっても自分の希望を叶えることができると伝わったのではないかと思います。

【全校公演 パントマイムショーの様子】



【6年生のワークショップの様子】



12月の行事予定

1日(月)	参観日（3・5年生）	19日(金)	A L T 来校日
2日(火)	参観日（1・2年生）	25日(木)	2学期終業式
3日(水)	参観日（4・6年生）		5時間授業
4日(木)	全校集会	26日(金)	冬季休業日（1月14日まで）
5日(金)	図書貸出最終日	29日(日)	年末の休日
10日(水)	交通安全街頭指導 下校指導	30日(月)	年末の休日
11日(木)	学力検査【国、算】（全学年） 委員会④	31日(火)	年末の休日
15日(月)	冬休み図書貸出開始 学校諸費引落日 スクールカウンセラー来校日		学校閉庁日（1月3日まで）